

コミュニティ・スクールとは？

学校と地域が力を合わせて、お互いをとりまくさまざまな課題を解決しようとする仕組みです。教員の働き方改革や、人間関係の希薄化による地域活力の低下などが喫緊の課題となる中、全国で導入が進んでいます。保護者や地域住民などの委員からなる「学校運営協議会」が置かれ、学校運営に対して自分たちの意見を反映できるのが大きな特徴です。それぞれの課題や目標を共有しながら、一体となって地域を担う子どもたちの成長を支えていきます。

これまでとの違い

これまで 学校評議員制度

学校運営に関して、校長が保護者や地域の人の意見を聞き、開かれた学校づくりを行うための制度。教育に理解や見識のある個人を中心に構成され、必要に応じて意見を述べる。評議員を設置するかは任意で、発言に学校への拘束力はなく、責任は負わない。学校のアドバイザーのような存在。



これから コミュニティ・スクール

保護者や地域の人がある一定の権限を持って学校運営に参画し、子どもの健全育成や学校運営の改善に取り組む。学校運営協議会の設置は努力義務とされ、合議体の機関。学校評議員より強い権限を持っており、発言には拘束力があるが一定の責任を負う。学校と対等な立場で、学校運営の当事者として協議を行う。

導入によるメリット



子ども

- ・ 学びや体験活動が充実し、より質の高い教育が受けられる
- ・ 地域の担い手としての自覚が高まる



教職員

- ・ 地域の協力を得られ、教育活動が充実する
- ・ 地域の手を借りることにより、教職員の負担が軽減される



保護者

- ・ 地域全体で子どもを守る安心感がある
- ・ 保護者同士や地域の人と新たなつながりが生まれる



地域の人

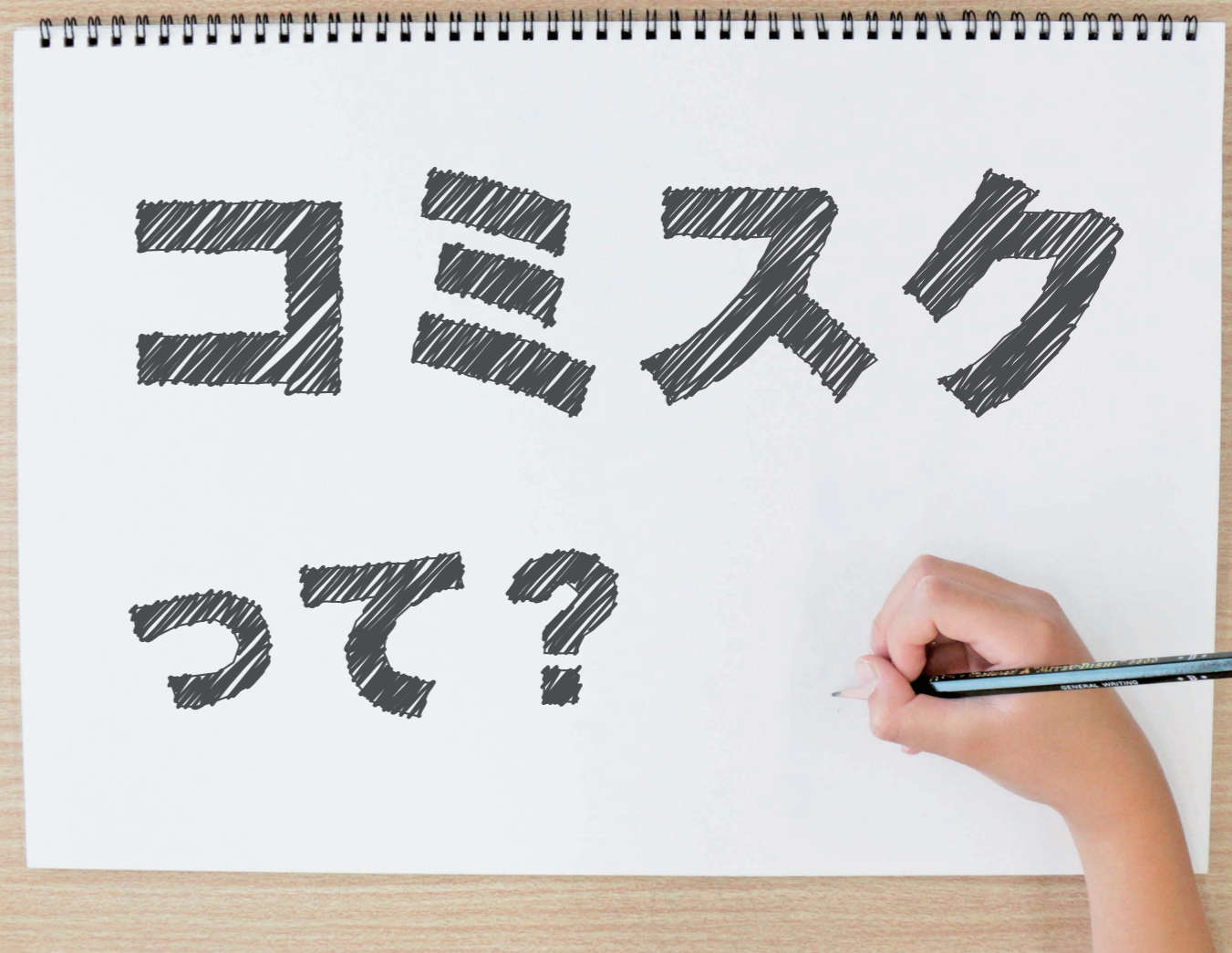
- ・ 自身の経験や知識を生かすことで、生きがいにつながる
- ・ 防犯・防災体制などが強化される

西条市が目指すコミュニティ・スクール

西条市の小・中学校は、地域の皆さんの力を必要としています。地域の子どもの顔を知っている、声を知っている、そんな皆さんが子どもたちの成長にコミュニティ・スクールを通して関わることで、子どもたちに将来的に「地域を支える力」になってもらう。皆さんが関わった子どもたちが成長し、大人になってまた地域の活動に参加する、そんな活動になることを目指しています。

問合せ 市庁舎新館4階 学校教育課 Tel.0897-52-1640

学校教育課
星加 卓優さん



特集

コミスク、始まります！

みんなで一緒に考えよう 学校と地域のこと

令和6年度より、市内の全小中学校で導入予定※のコミュニティ・スクール（以下、コミスク）。学校関係のことなんだろうけど…よく分からない、という方がほとんどかもしれません。未来を担う子どもの成長を学校や保護者だけでなく、地域の皆さんも一緒になって考えていく、関わっていくことで、地域にもさまざまなメリットがあります。

少しでもコミスクを身近に感じてもらえたら、ほんのちょっとあなたの力を貸してもらえませんか？

※令和5年6月1日時点、市内35校中9校がコミスク導入済み

あなたのお力をぜひ子どもたちのために！

コミスク
と連携



西条公民館館長
かずえ
津嶋 和江さん

市社会教育課在籍当時、放課後子ども教室・地域未来塾・土曜教育の仕組み作りを担当。現在も公民館長として地域と子どもをつなぐ



放課後子ども教室・地域未来塾・土曜教育は、地域住民や教員OB、時には企業や外部団体の力を借りながら、子どもの多様な体験・交流や学力向上に向けて支援する活動です。コミスクと連携して活動することで、学校と地域の一体感がより高まります。

子どもって、ほんのちょっとしたきっかけですごく変わるんですよ。水泳がテーマの土曜教育では、トライアスロン経験者の方を講師に招き、年3回程度の講座で、市内の水泳記録会で例年



土曜教育（禎瑞地区）
専門家の指導でぐんぐん上達しました



放課後子ども教室（神拝地区）
一緒に昔遊び（あやとり）を楽しみます

ビリだった学校が2位になったことも。そのとき感じた達成感や、そこに大人が関わってくれた経験は、きっと子どもの心に刻まれていると思います。

また、こうした活動は地域や家庭の話題作りにも。子どもから大人へどんな話題が広がり、地域の新たな人材発見・育成にもつながります。

あなたの経験や技術が、きっと子どもたちの役に立ちます。何か力になれると思った方は、お近くの公民館に気軽に声をお掛けください。



対談 地域 × 学校

玉津公民館館長
よしあき
川上 善秋さん

令和3年度コミスクモデル校※の玉津小学校と連携しながら、ちょこボラなどさまざまな活動を実施

神戸小学校校長
みちよ
石原 道代さん

昨年神戸小に赴任。地域の声を集めながら準備を進め、今年度コミスクモデル校※に手を挙げた

※コミスク導入初年度校のこと

地域と学校が一つに 子どもが地域を好きになる

コミスクでは実際にどんな活動をし、どんなメリットがあるのでしょうか。今、地域、学校それぞれの立場で取り組みを進めているお2人にお話を伺いました。

学校は今、協力を求めている

——今、教員を取り巻く環境は。

石原 昨年私が赴任してきたとき、現場に危機感を感じました。人手不足による長時間労働は当たり前。校長自ら授業に入ることも。学校を助けてほしいとの思いで、今年度のモデル校に手を挙げました。

川上 他の学校も同じような状況だと思います。学校が協力してほしいと手を挙げることで、きっと助けてくれる人がいます。困っていることを外へ発信することで、地域の人も動きやすくなるんよね。

地域の人が学校の中へ

——取り組みの進め方は。

川上 玉津小では、ちょこっとボランティアという仕組みがあります。できる人ができるときに「ちょこっとだけ」を合言葉に、今は60人ほどのメンバーで活動。学校の掲示板やメールの連絡網で募集をかけて、都合が合えば来てくれます。石原 神戸小学校では、昨年夏に保護者や地域の方と、理想の子ども像や地域と学校が一緒にできることなどを考え、学校運営協議会を

立ち上げました。その後玉津小を参考にボランティア制度を取り入れ、まだ規模は小さいですが活動を始めています。



神戸小での意見交換会。約80人が集まった

——これまでどんな活動を。

川上 授業に入って、学習をサポートしたり、防災を学ぶためにまちの探検をしたり。また、ミシンなど専門的な授業では、30人のクラスを教員が1人で見るのは難しい。そんなときちょこボラを募集したら6、7人集まってくれて、能率よく学習が進み、3時間の授業が2時間で終わりました。

石原 音楽や毛筆など、専門知識や技術が必要な内容は、詳しい人が入ることで、子どもにとって素晴らしい教育になります。教員が全部調べてやるよりは、教育の質は

子どもが地元を好きになる

——改めてコミスクとは何か。

川上 コミスクは学校だけでなく地域と相互の活性化ですね。地域もいろんな課題を抱える中で、子どもも交えて地域全体が元気になれると思います。

石原 この活動を充実させることは、地域にとってもたくさんのメリットがあります。人のつながりが増えコミュニケーションが活発になることで、防犯・防災体制がより強くなったり、今まで培ってきた経験や知識を子どものために生かすことが生きがいにつながったり。

川上 コミスクの目指すところは、子どもたちに地元を好きになってほしいということだと思っんです。地域で豊かな体験を重ねた子どもは、大人になっても愛着のある地元のことを誇りに思います。そのために、地域の人、学校が持つ役割をもう一度みんなで話し合っ協力していきたいですね。

講演会のお知らせ

コミスクと一緒に学ぼう

あなたの子どもや孫世代が、地域を支える力をつけるために
お時間をちょっとだけいただけませんか？

大町公民館 大ホール

7月4日(火) 13時～15時

中央公民館 多目的ホール

7月6日(木) 19時～21時

- ▶対象 子どもの保護者・地域の方など
 - ▶内容 これまでの地域学校協働活動とこれからのコミュニティ・スクール活動の違いについて
 - ▶講師 遠藤敏朗氏（（一社）コミスクえひめ 副代表理事）
 - ▶問合せ 市庁舎新館4階 学校教育課 TEL0897-52-1640
- ※申込不要。直接会場へお越しください

目指すのは「地域の学校」 地域の子どもは地域で育てる

今まで教員として子どもと接してきて、学校だけで子どもを健全に育むことは難しいと感じています。教室の中だけでは教えられないことも、地域の人に関わって学校の活動をサポートすることで、子どもたちが変わったと感じるときが何度もありました。また、子どもたちが地域のためにできることもたくさんあります。ちょっとした困りごとを手伝ったり、伝統芸能の担い手となったり。そういう経験をした子どもは、何か自分にできることがないかと考えるようになってくれると思っています。
コミュニティ・スクールの考え方を一言で表すと「地域の学校」。

子どもだけの学校じゃないよということなんです。少子化や核家族化が進み、地域のつながりの希薄化が全国的にも問題となっている中、コロナでさらに拍車がかかりました。昔は運動会でもわが子を見るのと同じように、いろいろな人が見に来て、食べ物を持ち寄ってみんなでつまんでいた。地域が家族のような時代がありました。そんな昔の人のつながりが、これから目指す日本型のコミュニティ・スクールだと思っています。地域全体が子どもを温かく支えてあげる風土を、それぞれの土地にあわせた形で無理なく進めていければいいですね。

講師の先生から



としろ
遠藤 敏朗さん
元松山市立雄郡小学校長。
愛媛大学教職大学院特定教授などを経て現職。コミスクの普及啓発に力を注ぐ



コミスクの取り組みを始めて3年目の玉津小学校。
地域の人が学校にいる風景が、日常になりつつあります。

広がる地域の輪



- ①どんぐりでおもちゃ作り。ちょこボラさんもお手伝い
- ②防災タウンウォッチング。防災の専門家に学びます
- ③生活科の授業では、秋を見つけに外へお出掛け。
- ④「おいちゃん九九聞いて〜」覚えたての九九を聞いてもらおうと、2年生が集まります
- ⑤地域の人と花植え体験。小学校をお花でいっぱい
- ⑥ミシンの授業ではちょこボラさんが大活躍！
普段やっていることが、授業の中では大きな助けに

保護者より ちょこボラさんは よき相談相手

先生には言いづらくても、ちょこボラさんなら相談できることもあるみたい。授業中も分からないところを質問できるようになりました。学校の中に子どもが頼れる人が増えるのは、親としても心強く思います。

子どもたちが可愛いんだよね。だんだん名前を覚えてくれて、また来てね！と言ってくれたり。そんな子どもの成長の手助けができるのが何より幸せ。本当に毎日ワクワクします。私たちも学校に、子どもに育てられている気がします。また、学校に来ることで自然と知り合いが増えるのも楽しみの一つ。家でじっともつこの温かい輪を広げていきたいですね。

地域より 子どもたちに 元気をもらえる



玉津小ちょこボラの皆さん